

あなたとともに考える「くにたち」のこれから

市民と市長の対話の会 実施報告書（令和8年 第1回）

1. テーマ

令和8（2026）年度予算、市の財政状況 ほか

2. 日時

令和8年5月26日（火） 午後6時～

3. 場所

市役所 地下食堂跡地

4. 参加者数

4名

5. 内容

市長より挨拶を行い、「令和8（2026）年度予算等」の報告をした後、市民と市長の対話を行った。

6. 対話の内容（主な意見等）

- 国立駅周辺のまちづくりについて、国立駅の商業施設が1人勝ちとならないよう、まちの「流動性」（人・もの・情報の動き）を高める必要がある。蛇口から地下水が供給されるような場があれば、マグネットポイント（人やものをひきつける場所）になると思う。
- 岩手県紫波町のオガールという施設のように、市役所横の会議室棟を災害時の避難

所として活用してはどうか。

- グループホームは、認知症高齢者のための施設だが、要介護度の高い方向けの特別養護老人ホームとなっている実態がある。その実態を調査し、グループホームを増設してほしい。
- 富士見台団地の建替えについて、検討会ではよい案が出ている。しっかり進めてほしい。住民には、どうなるのかわからないという不安がある。
- 多摩川に中洲があり、木が生えている。土手のようになってしまっているので、改善を願う。木は伐採をしてほしい。
- デジタル・デバйд対策として、高齢者のためのスマートフォンサロンが開催されている。南部地域での開催をもっと増やしてほしい。また、スマートフォンサロンの会場となる場所には、Wi-Fiを整備してほしい。矢川プラスのWi-Fiは、1時間で切断されてしまう。
- デジタル推進委員を養成する取組を行って、その数を増やしてほしい。
- 公園での手持ち花火について、他市の動向を見て、申請制ではなく、解禁に向けて動いてほしい。
- 公園の花火が解禁されてしまうと、近隣住民が騒音等に悩まされることになるのではないかと。安易に賛成はできない。
- 令和8（2026）年度は、小学校に冷水器を設置するが、学校開放のときに一般の方に使わせてはどうか。



▲対話の様子